

## 4

## 複数の資料の読み取り

## ① それぞれの資料の特色をふまえ、情報を適切に読み取ろう

あるものごとについてだれかに分かりやすく伝えたいとき、私たちは、文章や口頭での説明のほかに、図（イラスト）や写真、表やグラフなどを付け加えて説明します。これらの資料を使うと、文章に具体性や説得力が増したり、伝えたい内容が視覚化され、よりイメージしやすくなったりするからです。資料を用いるときは、どの資料をどのように使うと効果的なのかを考え、目的に応じた資料を選ぶことが大切です。また、問題に資料が用いられているときは、出題者がその資料から何を読み取ってもらおうとしているのか、その意図を考えましょう。資料は、そこからあることを読み取ってほしいという出題者からのメッセージでもあります。その資料から読み取れることを、必ず解答に反映させるようにしましょう。

なお、それぞれの資料の特色の一例を示すと、次のように分類することができます。それぞれの資料ごとに「得意分野」があることを覚えておくとよいでしょう。

- |       |   |
|-------|---|
| ・表    | → たくさんの数値を、まとめて比較しやすい                   |
| ・グラフ  | → それぞれの数値の大小や、その数値が全体に占める割合などが分かりやすい    |
| ・地図   | → 空間的な位置を整理し、相手に伝えやすい                   |
| ・イラスト | → 説明が補足され、具体像をイメージしやすい                  |
| ・写真   | → 文章や数値に説得力をあたえ、その話題と現実とのつながりを見る人に実感させる |

## ② 複数の資料の中から必要な情報を集めて分析しよう

資料が増えればその分、資料から読み取れる情報が増えます。問題を解く場合には、そういったたくさんの情報の中から、必要なものだけを選び取る作業が必要になります。設問を何度も読み返し、資料を見比べるなどして、それぞれの資料からどういう情報を読み取ればよいのかを考えましょう。

## ③ 自分の意見を入れて書こう

200字程度の記述問題では、文章や資料から読み取れることだけでなく、自分の考えや意見を問われることが多くなります。自分の感想や意見が相手によく伝わるように、構成に気をつけて書く訓練をしましょう。

200字以上の文章を書くときは、必ずメモを作ってから書くようにしましょう。書かなければならないことを箇条書きにして、それぞれの項目の中身をふくらませていきます。指定字数に届かなかったり、またはオーバーしたりしたときは、書く項目数を加減したり、それぞれの項目の中身をふくらませたりけずったりして調節します。文章は書いたあとに必ず読み返し、推敲するようにしましょう。

## ④ 設問に合わせて、答え方を考えよう

「～と～、どちらを選びますか」などと聞かれている問題では、最初に、自分がどちらを選ぶかをはっきり書きましょう。そのあとで、理由を述べます。200字以上になると一文ではおさまらなくなりますから、どこで文を切るのがよいか、接続語を使った方が分かりやすいかなど、読みやすさも考えるようにしましょう。

また、「～について、あなたの考えを（自由に）書きなさい」、「～を想像して書きましょう」などのような自由度の高い記述問題の場合は、必ずしも結論から書く必要はありません。その設問に合わせて、構成を工夫してみましょう。



# 1 読み取った内容を簡潔に書こう

少ない文字数で解答する練習をしましょう。

この單元では、文章を読み、設問に対して、三十字程度までの少ない文字数で、簡潔に解答できるようになることを目標に学習します。

解答欄には、必要なこと以外は書きこまず、問われたことについて正確に、また簡潔に答えることを心がけましょう。答える内容にふさわしい文末で書き終えることにも注意しましょう。

## 例題1 次の文を読んで、あとの問いに答えなさい。

ものを読むものは「あるがままを読む」「正しく読む」ことを求められるが、それがどういふことか、考える人はまれだ。

〈外山滋比古「解釈」より〉

問 —— 線部「それ」とは、どういふことを指していますか。

簡潔に書いて答えなさい。

↓ 解答例 ものをあるがままに読む、正しく読むといふこと。

## 例題2 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

ものを読むといふのは、書かれていますことばをそのまま受け入れるのではなく、読み手の解釈による意味をとらえることにほかならない。それが、どうしたわけか、まったく理解されて

いない。

〈外山滋比古「解釈」より〉

問 —— 線部「ものを読む」とは、どういふ行為だと、筆者は述べていますか。簡潔に書いて答えなさい。

↓ 解答例 読み手の解釈によって意味をとらえる行為。

## 1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

雨の日の電車の中の傘問題、というのがある。

雨の降る日の電車の中だ。ラッシュ時の超満員の車中は特殊すぎるから、それほどの混みではなく、立って吊り革につかまっている人もそこそこいる、ぐらいの混み方だでしょう。雨の日なんだから、みんな手に濡れた傘を持っている。さて、その傘をどうしているかだ。

五年ほど前に私は、ほとんどの乗客が、電車に乗るとすぐ、傘を傘の紐で束ねる、というのに気がついた。そしてちょっとびっくりした。

昔は、そのようにする人もいないわけではなかったがそれは①感心な人であって、濡れた傘を束ねないで床に突き立てて持っている人も結構いたのだ。そんな人の横を通り抜けたらすると、ズボンが濡れてしまいムツとしたものだ。

ところがいつの間にか、電車の中では傘は束ねる、というのが、この国の（私がそれを目撃したのは東京）生活習慣の中に、常識として定着しているのだ。そして、若い人ほど、電車に乗り込むとすぐに傘を束ねる。それって現代の常識じゃん、とでもいう様子に見える。②いい習慣が定着したものだな、と私は感心した。

ところが、まれに傘を束ねないで、柄のほうで十センチぐらいずつ開いた半とじ状態で床に突き立てている人がいる。シートにすわって、膝の前にそういう傘を立てている。それが、お年寄りばかりだった。

そういう事例だってあるのだ。若い人は公德心やマナーがなっ  
ちやいない、と批判している老人のほうだが、車中の傘については、  
あんまり他人の迷惑に配慮してないのである。

それは、老人たちの生活習慣の中にその体験がないからだろう  
と思う。昔はみんな③そういうふうだったのだ。車中で傘を束ね  
るのは、比較的最近この国の都会の人々の中に定着してきた習慣  
なので、老人で④それに気がついてない人もいるってことだ。

しかし、いずれにしても、若い人は必ず傘を束ねるのだった。  
公衆マナーが最悪ののはずの若者である。

私はそれを見ていて思った。誰も若者のこのマナーのことは言  
わないよなあ、と。みんな、今の若者はなつとらん、ということ  
を、若者の悪いところだけをかき集めて語るのだ。それは⑤不公  
平である。

公平に若者を見てみようよ、と私は思う。その上で、これは問  
題だぞ、というところを批判するのだ。

〈清水義範「行儀よくしろ。」より〉

1 線①「感心な人」とは、どのような人を指していますか。  
三十字以内(句読点も字数に数えます)で書いて答えなさい。


2 線②「いい習慣が定着した」とありますが、どのような習慣  
が定着したのですか。三十字以内(句読点も字数に数えます)で書  
いて答えなさい。


3 線③「そういうふう」とは、どういう様子を指していますか。  
三十字以内(句読点も字数に数えます)で書いて答えなさい。


4 線④「それ」とは、どういうことを指していますか。「迷惑」  
ということばを必ず用いて、三十字以内(句読点も字数に数えます)  
で書いて答えなさい。


5 線⑤「不公平である」とは、どういうことですか。三十字以  
内(句読点も字数に数えます)で書いて答えなさい。


\* 1~4は、いずれもよく似た内容について問う設問です。そ  
れぞれの設問が求める答えのちがいによって、解答のしかた(文  
末の表現など)が変わることに注意しましょう。